

HOKUSEI@COM



- 04 [OB&OG インタビュー／卒業生は、いま。]
通訳案内士／専門学校講師 グリーン 仁美 さん
北海道と世界を「人」でつなぐ「通訳案内士」という仕事。
- 六花亭 三越店・丸井今井札幌店 副店長 小島 聰実 さん
やっぱり人が好き。それが仕事を続ける原動力。
- 06 [先生たちのその素顔]
経済学部 経済法学科 教授 足立 清人 先生
情熱と愛情をもって学生と向き合い、
学問の視点で社会にコミットする。
- 07 [学生広報委員 企画ページ]
オンライン開催でも、星学祭の楽しさは変わりません！
- 08 [HOKUSEI INFORMATION 北星学園大学からのお知らせ]
「オンライン国際共修(COIL)プロジェクト 学生レポート」ウェブ公開しました！
短大開学70周年記念ロゴマークが決定しました！
- [まちがいさがしクイズ]
北星学園大学オリジナルグッズが当たる！



02-03

短大開学70周年記念 [卒業生・在校生座談会]

北星の学びを誇りに
世を照らす星となれ

フリーキャスター／医療キャスター 松本 裕子 さん

FMアップル パーソナリティー 清水 一江 さん

短期大学部 生活創造学科 2年 鈴木 未侑 さん

短期大学部 英文学科 2年 國枝 建太 さん



[卒業生・在校生座談会]

北星の学びを誇りに、世を照らす星となれ

北星学園大学短期大学部は1951年に開学し、今年度で70周年を迎える。

学科改編やキャンパス移転、男女共学化など、時代とともに教育のあり方は変容を遂げてきましたが、北海道の女子教育の礎を築いたサラ・C・スミスの志「Shine like stars in a dark world」は、今も変わらず息づいています。



まつ もと ゆう こ
松本 裕子さん

1993年 英文学科卒業
フリーキャスター／医療キャスター
外資系企業秘書やキャビンアテンダントを経てフリーランスアナウンサーに転身。福井テレビを経て「JHBスーパーニュース」キャスターを10年間務め、現在は医療キャスターとして取材活動を続けている。「松本裕子の病を知る」(第2・4日曜6:15~)放映中。



しみず かずえ
清水 一江さん

1987年 家政学科
(現・生活創造学科)卒業
FMアップル パーソナリティー
3人の子どもを育て上げ、50歳でパーソナリティーとしてデビューし、現在2つの番組を担当。北星学園大学同窓会幹事。



すず き み ゆ
鈴木 未侑さん

短期大学部 生活創造学科
生活心理コース 2年
北星学園大学附属高等学校出身
高校時代から観光業界に興味があり、短大の2年間は社会に出るための準備期間と考えて勉強と就活に専念していました。夢をかなえて春からホテルウーマンの第一歩を踏み出す。



くに えだ けんた
國枝 建太さん

短期大学部 英文学科 2年
札幌創成高等学校出身
入学直後からコロナ禍に翻弄されたけれど、英語の勉強も友達づくりも全力で頑張った。短大をステップに東京の四年制大学へ編入し、将来は英語を活かせる仕事に就きたいと考えている。

キャンパスの思い出、大切な仲間との出会い

松本：私が学生時代を過ごしたのは南4条キャンパスでしたが、移転して20年ほど経つんですね。現在も仕事などで北星キャンパスを訪れることがあります、旧キャンパスを懐かしく思い出します。

清水：百年記念館や木造の廊下など、至る所に歴史が息づいていましたね。私は裏参道の近くにあった「円山寮」に入寮していて、夜になると誰かの部屋に集まっておしゃべりしたり、日曜日にみんなで教会の礼拝へ出かけるのが楽しみでした。

松本：敷地内に北星女子中学・高等学校があり、女の子同士の華やいだ雰囲気でしたね。私にとって北星＝女子短大のイメージのまま。今は男子学生が在籍しているのが不思議な気分です。

國枝：英文学科の男子学生は全体の1割ほど少ないのですが、男女問わずとも仲が良いです。昨年はコロナ禍で入学式もなく通学期間も数えるほどでしたが、zoomで話したり、クラス会を企画したりして友達の輪を広げました。僕は好きな英語を勉強したくて北星に進学したので、同じ気持ちを共有できる仲間に出会えてうれしく思います。

鈴木：私は早く社会に出たくて、就職支援が充実している北星を選びまし



た。生活創造学科は男子学生がいないのですが、少人数ゼミで絆を深め、毎日が女子会みたいにワイワイ楽しく過ごしています。

清水：短大で出会う友達は一生の友達になりますよ！私は短大時代の友人と一緒に子育てをして、今も親しく付き合っています。

松本：同感です！1年生の夏から9ヶ月間、一緒にイギリス留学した7名は生涯の大親友になりました。仕事や結婚、出産などその後の人生はさまざまだけど、会えばすぐに昔に戻れるのは、同じ時間を生き、ともに夢を追った仲間ゆえの絆かもしれません。

恩師への変わらぬ思い、時代とともに変わる学び

清水：私は同窓会の幹事をしており、先生たちと関わることがあります。昔も今も北星の先生方は素晴らしいですね。学生のために心を尽くしてくださる先生が多いのは、キリスト教の精神が影響しているのかもしれません。

松本：確かに先生はとても近い存在でした。英語の成り立ちや歴史などを厳しくも面白く教えてくれた清瀬健先生の英語学、吉田かよ子先生の発音法など楽しい授業がいっぱいあって、先生自身が英語に情熱を持って取り組まれていることをひしひしと感じていました。

鈴木：清水さんは生活創造学科の大先輩ですが、当時はどのような授業があったのでしょうか？





清水：当時の名称は「家政学科」で、被服や食物栄養、生活導線など衣食住全般を学びました。当時は短大にも教職課程があり、私も中学家庭科教員免許を取得したんですよ。その後生活教養学科を経て生活創造学科になつたのですね。今はどんなことを学んでいるのですか？

鈴木：現在は文化、芸術、心理学、社会学、経済学、情報技術などを学修領域として、消費者問題や暮らしの法律、デザイン、パソコンスキルなど、生活に密着したテーマを学んでいます。

松本：学科のカリキュラムにも、時代とともに変化してきた女性の生き方や社会のニーズが反映されるのですね。でも社会で役立つ実践的な学びの機会が提供されている点は、昔も今も変わりませんね。

北星で学んだ2年間が、きっと未来の礎になる

清水：短大の2年間はあっという間ですね。進路は決まっていますか？

鈴木：観光業界を志望しており、コロナ禍の影響が大きい業界だったので早期から就活に取り組みました。来春からは登別のホテルで働き始めます。

國枝：東京の大学に指定校推薦で編入予定です。外資系企業か航空業界を志望しているので、コロナ禍の収束を願いつつ、英語に磨きをかけたいと思っています。

松本：コロナ禍の学生生活はさまざまな苦労があったでしょうね。でも、北星の学びはきっと皆さん的人生の糧になるはず。私は卒業後に翻訳の専門学校、2度目のイギリス留学、秘書、キャビンアテンダント、フリーアナウンサーと絶余曲折を経てきました。回り道ゆえの困難もあったけど、たくさんの点を結ぶと線になり、キャスターという道へつながっていました。その礎となっているのは、人生で一番勉強したと言えるほど充実していた北星の2年間に他なりません。

清水：私は若くして結婚しましたが、3人の子育てをしながら札幌市のPTA協議会で活動し、50歳でラジオパーソナリティーの夢をかなえました。あらゆることに自信を持って挑戦し、いくつになっても「次は何をしようか」とワクワクできるのも、北星で学んだ誇りがあったから。サラ・C・スミスが日本で初めて植えたライラックが春に花を咲かせるたび、北星への愛校心が湧き上がります。皆さんも北星で学んだことを誇りに思い、自信を持って歩み続けてください。

松本：コロナ禍で世の中が暗く混沌とした時代の今、「Shine like stars in a dark world」という言葉が改めて心に響きます。大切なのはどんな肩書きを得るかではなく、誰かに必要とされることを喜びと感じられるかどうか。星のように輝いて誰かを照らす存在となるよう、今こそ北星の建学の精神を心に留めて頑張ってほしいと思います。

國枝・鈴木：本日はありがとうございました。

【短大70周年の歩み】

1951(昭和 26)年	北星学園女子短期大学開学<英文科>
1954(昭和 29)年	女子短期大学に家政科設置
1958(昭和 33)年	女子短期大学英文科に専攻科開設
1975(昭和 50)年	女子短期大学の英文科を英文学科に、家政科を家政学科に名称変更
1989(平成元)年	女子短期大学の家政学科を生活教養学科に名称変更
2001(平成 13)年	女子短期大学、開学 50 周年
2002(平成 14)年	女子短期大学を北星学園大学短期大学部に校名変更し男女共学化、大谷地に移転、同時に、生活教養学科を生活創造学科に名称変更
2021(令和 3)年	北星学園大学短期大学部、開学 70 周年





北海道と世界を「人」でつなぐ 「通訳案内士」という仕事

北星学園の開学とともに誕生した北星女子短期大学英文科(現・北星学園大学短期大学部英文学科)は、伝統ある本学の英語教育のルーツそのもの。「好きな英語をとことん学びたい」と願う入学者は数多く、グリーン仁美さんもそのひとりです。憧れの航空業界を経て世界へ飛び出し、現在は専門学校講師を務めながら通訳案内士として活躍する仁美さんにお話を伺いました。



英語が好き。旅が好き。渡航先は20カ国以上!

北星を選んだのは航空会社や旅行会社で働きたかったから。英会話やコミュニケーションに力を入れているカリキュラムに惹かれました。英語はあまり得意ではなかったし、英会話を学んだこともなかったのですが、入学後は外国人の先生と話す機会が多く、実践的な英語を学ぶことができました。アメリカ研修旅行で恥ずかしがらみにしゃべることを身をもって学べたのもよかったです。

卒業後は航空会社の国内線予約課で1年半働いた後、ワーキングホリデーでオーストラリアへ。現地ガイドとして働きながら英語力を磨き、帰國後は国内外のツアーに同行する添乗員や専門学校講師として働きました。北海道からの海外旅行が急増していた頃だったので、添乗員の仕事は多かったです。今まで渡航した国は20カ国以上に上ります。

通訳案内士として外国人旅行客に北海道の魅力を紹介

結婚・出産を機にしばらく仕事を離れていましたが、子育てがひと段落したタイミングで「全国通訳案内士」の資格を取得しました。全国通訳案内士は来日された外国人のお客さまをご案内する通訳ガイドの国家資格です。合格率10%未満という難関資格で、私も二度目のチャレンジで合格しました。現在は派遣団体に所属し、道内各地のツアーに同行。ここ2年ほどはコロナ禍でツアーがなくなってしまいましたが、以前は道東の写真撮影ツアーやクルーズツアーなど長いもので10日間～2週間ほど、東南アジアや中東、ヨーロッパなど各国のお客さまをご案内していました。

ガイドは話す仕事と思われがちですが、大切なのは「聞く」こと。お客様

の話をよく聞き、求めるものを汲み取って最良の提案ができるよう工夫を凝らすのがガイドの醍醐味です。さらに地元の方の話にも耳を傾け、ガイドブックには載っていない情報を引き出してお伝えするととても喜ばれます。

時を経て実感する、学生時代の学びの価値

私は仕事や生活を通じて英語を習得し、日本の地理や歴史、文化を勉強し直して通訳案内士の資格を取得しましたが、学生時代にもっと勉強しておけばよかったと悔やむこともしばしば。北星の同窓生が社会で活躍していることを知るたび、あの2年間はなんと恵まれた環境だったことかと改めて実感します。学生時代は外の楽しいことに目が行きがちだけど、自分のために時間を使えるうちに読書や思考を蓄積することは、将来きっと実を結ぶはず。短大100周年を迎える頃、後輩たちはどんな夢を追いかけ、どんな風に学んでいるのか、とても楽しみです。



フィリピンで果樹園や園芸会社を経営するファミリーに同行。海外富裕層の中には動物園を所有する方もいて驚かされます。



フィリピンからのソーリーダーと記念撮影。富良野、美瑛や定山渓、ニセコなどご案内して楽しんでいただきました。

やつぱり人が好き。
それが仕事を続ける原動力。



短大を社会人へのステップに

進路に迷っていた高校時代。四年制大学で学びたいわけではないけど高卒ですぐに就職するのもためらわれ、社会人へのステップとして短大進学を選びました。生活創造学科は学問領域が広く、2年の間にやりたいことを見つかるのではと思ったのです。

さまざまな科目を受講する中で面白ないと感じたのは社会福祉や心理学。興味ある学びに着目することで、自分は人とのコミュニケーションが好きなんだと自覚するようになりました。接客のアルバイトもしたことがなかったのに販売職に就き、10年以上仕事を続けていられるのも、幅広い学びにふれて自分の適性を知ることができたおかげだと思います。

大学祭を通して結んだ仲間との絆

在学中は大学祭実行委員会に所属し、大学祭の企画運営に携わりました。大学・短大の枠を超えた仲間との交流は、私の視野と行動範囲を大きく広げてくれました。学内・学外ともに大きな注目を集める大学祭の運営は責任が大きい分やりがいも十分。イベントなどの企画アイデアを出し合い、一人ひとりが自分の役割を果たして成功を目指すプロセスは、今思えば会社で働くことに似ていたように思います。大学祭を終えた後、キャンパス内の学生交流会館kirariに泊まって打ち上げをした思い出も忘れられません。苦楽を共にした委員会の仲間とは、今でも交流が続いています。

人と交わり、販売職の面白さを実感する日々

卒業後は六花亭製菓株式会社に就職し、今年の春から三越店と丸井今井札幌店の副店長を務めています。入社当時は言われたことをやるだけで精一杯でしたが、さまざまなお客様に接して臨機応変な対応力が身につきました。役職を得たことで店舗全体に目配りし、責任を持って意思決定する姿勢が養われたように思います。毎日何が起こるか、どんな人と出会えるかわからないのが販売職の面白さ。時にはつらいこともあります、名前を覚えて声をかけてくださるお客様もいて、接客しているとやっぱり人が好きだと実感します。それが長く仕事を続ける原動力になっているのかもしれません。

私が販売職を選んだのは、短大でたくさんの人と出会い、コミュニケーションの楽しさを知ったから。大学の友人があと2年も学生でいられるのをうらやましく思うこともありました。が、ギュッと凝縮した2年間は私にとって大切な財産です。いま学生のみなさんも学業と就活の両立て大変だと思いますが、自分の将来をしっかりと見つめ、仕事も人生も全力で楽しめる未来をつかみ取ってほしいと思います。

「多様な分野」を「多角的に」学ぶ。これが生活創造学科の特色です。入学前に明確な目標がなくても、本学科でさまざまな学びと出会いを経験し、未来へつながる小さな芽を見つける学生がたくさんいます。誰もが知る北海道スイーツの人気店「六花亭」で着実にキャリアを重ねる小島さんの原点も、北星の2年間ありました。



2年生の夏、大学祭実行委員会のメンバーで富良野へ旅行に行った時の1枚。右から2番目が私です。



休日は大好きなお酒を楽しめるのが幸せ。コロナ前は友人とビアガーデンで盛り上がりを楽しむこともしばしば。

Featured Faculty Member

先生たちの その素顔

経済学部 経済法学科 教授 足立 清人 先生

PROFILE

茨城県出身

- 1993年 明治学院大学 法学部 法律学科 卒業
1997年 早稲田大学大学院 法学研究科 基礎法学専攻 修士課程修了
2003年 早稲田大学大学院 法学研究科 民事法専攻
博士課程単位取得満期退学
2005年 旭川大学 経済学部 経済法学科 助教授・准教授
2008年 北星学園大学 経済学部 経済法学科 准教授
2015年 北星学園大学 経済学部 経済法学科 教授



情熱と愛情をもつて
学生と向き合い、
学問の視点で社会にコミットする。

■人生に影響を与えた二つの出会い

僕にはターニングポイントとなった二つの出会いがあります。最初の出会いは大学時代。厳しいことで有名だったゼミで西洋法制史を学び、学問の楽しさに目覚めました。ゼミの辻泰一郎先生と出会っていなければ、大学院へ進学して研究者になることはなかったかもしれません。「教員は学生に息吹を与える仕事だ」という先生の言葉は、今も忘れることなく心に刻まれています。二つ目の出会いは、最初に赴任した旭川大学の同僚だった江口尚文先生。情熱と愛情を持って学生を指導する姿に、大学教員のイメージが覆るほどの衝撃を受けました。僕も江口先生に負けない教員になろうと決心し、本学に着任後も学生とアクティブに関わるゼミを目指し続けています。

■企画型ゼミで学生を鍛え上げる

僕が実践するのは「企画型ゼミ」。2・3年次は弁護士や銀行員などによる講演会を学生自身が企画・運営します。先日の講演会ではゼミOBの弁護士が講師として後輩の育成に尽力してくれて、とても感慨深かったです。4年次は学生自身が講師を務めることで学びを総括し、自らの血肉として社会へ羽ばたいてほしいという思いから、大学近郊の小学校で児童向けの法教育授業を実施しています。これらの活動の他にも、判例研究や大学対抗法律討論会などの活動もあり、学生にとっては決して楽なゼミではありません。しかし学生は経験を重ねるほどに目覚ましい成長を遂げていきます。そんな学生たちから僕自身も前進するエネルギーをもらっています。まさに学生教育は情熱と愛情。尊敬する二人の先生から得た学びを実践していくことが、教員である私のミッションだと考えています。

■社会問題に学問の立場から切り込む

大学教員にとって学生教育は自身の研究と有機的にリンクしているものです。しかし、10年ほど前、学生教育を優先して研究活動が後手に回っていた時期がありました。その頃、本学経済学部の平井廣一先生に「学者は学問で勝負するべき」と言われ、はっとしました。それ以来、「社会問題に学問の立場から切り込むことが研究者の存在意義」と肝に銘じています。最近の研究テーマは、気候変動に伴う環境変化の問題、所有者不明土地問題、災害復興やコロナ禍の問題に対して法律学の立場からアプローチすることなど。そのほか、道内の自治体のSDGsや移住促進に対する取り組みにも個人的に関心があり、法律学の視点から地域づくりにコミットできないかと考えています。最近は安定志向から公務員を志望する学生も多いのですが、大学の学びを活かしてアグレッシブに地域づくりにチャレンジする人材を育てることができれば、社会を変える力になるのではないかと期待しています。



▲サーフィン、バックカントリースキーを満喫する足立先生。「滑るよりも登りが好き」という筋金入りのスポーツマンです。



▲ルスツのトレイルラン30キロ大会で完走し「楽しい！まだまだ行けます！」と笑顔。「アドレナリンが出て、研究・教育にも好影響」と。



本学WEBサイトコンテンツ「研究者ストーリー」で足立先生のインタビュー動画も閲覧できます。
<https://entry.hokusei.ac.jp/scholar/adachi/>



今こそ!

北星に行こう!!!!

毎年秋に開催される本学の大学祭「星学祭」。昨年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、今年度は大学祭実行委員会の頑張りと工夫により、学内限定のオンライン開催が実現しました。今回は、昨年10月に行われた星学祭のようすをたっぷりお届けします！

星学祭スケジュール

- 11:15～11:30 オープニング
- 11:30～12:30 お笑いライブ
- 12:30～13:00 クイズ大会
- 13:00～13:10 有志企画(茶道部紹介動画)
- 13:10～13:50 Zoomでお絵かきですよ
- 13:50～14:00 エンディング
- 17:00～18:00 トークショー

オンライン開催でも、星学祭の楽しさは変わりません！

お笑いライブ



豪華3組のネタ祭り！

今回の星学祭では3組5名の芸人をお招きし、ネタを披露していただきました。「ひよしなかよし」さんの代名詞である遠藤憲一さんのモノマネから始まり、「アマッソ」さんが北星学園大学のためだけに用意してくださったダイナミックなネタ、「ハリウッドザコシショウ」さんの体と声を張った芸に熱狂しました。新型コロナウイルスの影響で無観客になり、芸人にとってはお客様の反応がわかりづらい状況であったにも関わらず、とても楽しい時間を作ってくださいました。

素敵なプレゼントも！

ライブ終了後、ゲストの皆さんのがんばりのサイン色紙が、視聴者の中から抽選で3名に贈られました。御三方のサインが一つの色紙に収められたのは史上初！世界に3枚しかないとても貴重なものとなりました。当選した方からは「とてもうれしい！」「額縁に飾ります！」との声が届いていました。



こちらが実際の色紙です。

人気俳優 赤楚衛二さんによるトークショー

トークショー概要

- 17:00～17:30 出演情報紹介
- 17:30～17:50 質問・お悩みコーナー
- 17:50～18:00 プレゼント抽選会

人物紹介

■赤楚 衛二さん

1994年3月1日生まれ(27歳)で俳優・モデルとして活躍している。映画「思い、思われ、ふり、ふられ」や、ドラマ「仮面ライダービルド」「彼女はキレイだった」など多数出演。若手俳優の登竜門と呼ばれる仮面ライダー作品に出演し、これからも更なる活躍が注目されている。

あっという間の1時間！

トークショーのゲストには、俳優やモデルとしても活躍中の赤楚衛二さんにお越しいただきました。初めて北海道を訪れたという赤楚さんに北海道ならではの食べ物や名所を伝えると、興味津々に耳を傾けていました。また、事前に募集した学生のお悩み、質問にも数多く答えていただきました。最後に素敵なプレゼントが当たる抽選会が行われ、事前に応募した学生の中から3名に赤楚さんのサイン色紙、2名にサイン入りポスターが贈されました。例年のように直接お会いすることはできませんでしたが、楽しい時間を過ごすことができました。

参加型！

実行委員会企画

実行委員会の企画ではオンラインでクイズと「Zoomでお絵かきですよ！」が行われました。学生参加型で行われ、高得点の視聴者にはApple Watchなどが当たる楽しい企画でした。なんと、私たちキタボシメンバーの社会福祉学部1年 八重柏遙さんがワイヤレスイヤフォンを獲得しました！



TOPICS

「オンライン国際共修(COIL)プロジェクト 学生レポート」を公開しました！

COIL (Collaborative Online International Learning)は、海外の学生・教員がオンラインでコラボレーションする学修プロジェクトです。主として英語副専攻の学生が参加し、オーストラリア・シドニー大学の教員とのセッションを企画・運営したり、インドネシア・マラナタ・クリスチャン大学の学生と多様性・職業観の違いなどについてディスカッションを行うなど、国際的な視野に基づく学びを深めてきました。



本学公式サイト内で公開しているレポートでは、活動の様子やプロジェクトに参加した学生の感想などをお伝えしています。コロナ禍によって留学や海外での活動に制約がある中でも、国際交流は可能です！国際交流に興味を持つ学生が、本プロジェクトを通して「挑戦」と「可能性」を見い出している様子をぜひご覧ください。



【国際共修サイト COIL】
<https://www.hokusei.ac.jp/international/coil-project/>

短大開学70周年記念ロゴマークが決定しました！



北星学園大学短期大学部の開学70周年を記念して、短期大学部生涯創造学科クリエイティビティデザインゼミの小泉碧さん(2年)がロゴマークを考案。力作の中から3つの最終案に絞られ、本学公式サイトやSNSを通じた投票によって左記のデザインが選ばされました。

北星のシンボルである星の形をなぞるように描かれた「7」のフォルムに躍動感がみなぎり、70年を経てなお未来へ突き進むパワーを感じさせるデザインです。記念ロゴは今後、グッズや広報誌などに使用していきます。

Hokusei Gakuen University Junior College 70th Anniversary Quiz

本学公式サイトにて「短大開学70周年記念クイズ」を公開中！回答していただいた方の中から抽選で素敵な景品をプレゼントいたします。PCやスマートフォンでアクセスして、ご参加ください！



<https://forms.office.com/r/2GDMJBfpQv>

北星学園大学オリジナルグッズが当たる！

まちがいさがしきquiz

[今号のまちがいさがしスポット]

体育館

地下1階、地上3階建ての施設です。地下のサブアリーナは、卓球、剣道などの競技のほか、壁に鏡が設置されており、ダンスの練習などもできます。1階は充実したフィットネスルームやシャワールームを備えた更衣室などがあります。2階はメインアリーナ、3階は吹き抜けで1周160mのランニングデッキとなっています。



★応募要項

下記応募フォームまたはハガキにて以下の内容をご記入の上、下記送付先までご応募ください。

①問題の答え(まちがい5個) ②郵便番号 ③住所 ④氏名

⑤電話番号 ⑥HOKUSEI@COMのご意見・感想

送付先:〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2丁目3番1号

北星学園大学 HOKUSEI@COM「まちがいさがし」係

■応募締切日:2022年3月5日(土)必着

■応募フォーム: https://www.hokusei.ac.jp/hokuseicom_quiz/

★正解発表

『HOKUSEI@COM』33号
(2022年8月発行予定)に
掲載いたします。

※ご応募は1号につき、おひとり様1回までとさせていただきます。

※正解者の中央から厳選なる抽選の上、当選者を決定いたします。

当選の発表は、賞品の発送をもって代えさせていただきます。

※お送りいただいた情報は賞品の発送のみを目的に使用させていただきます。

※ご住所・転居先の不明等で賞品をお届けすることができない場合は、当選を無効といたします。

前号の
正解

